

秘蔵墨蹟と嗚呼懐かしの水沢小唄

令和3年春以来、3年ぶりの新収蔵企画展。ここ3年間に亘って収蔵された新平書翰や掛軸・扁額・色紙・扇子等が勢揃い。中には、ボーイスカウト制服や猪口・写真・絵葉書も。水沢小唄は、映像や音源と併せて華やかに紹介。

1 水沢小唄絵葉書 (寄附者:佐々木昭司様)



一水澤よい町 コリヤサ
 駒ヶ岳(やま)の気うけて
 今も昔も すぐれた人が
 出たよ出た たんと出た
 二春の公園は コリヤサ
 花見の宴
 踊る舞子の 差手引く手に
 花が散る 花が散る
 六緯度を測るは コリヤサ
 世界に 三所(みとこ)
 木村博士の 功は高い
 Z項Z項

節目節目に「ヨウイサノサ」等の合いの手が入る

【水沢小唄】作詞:菊池文月、作曲:大村能章

「水沢小唄」は、昭和6年に作詞作曲レコード販売、若柳吉郎によって振付けられた。絵葉書(岩淵写真館撮影)は、1943(昭和18)年観光案内として使用されている。昭和50年代に復刻の取組がなされ、1992(平成4)年「第一回水沢小唄を偲ぶ会」が開催されている。

令和6年度 第一回企画展
 新収蔵資料展
 「秘蔵墨蹟と
 嗚呼懐かしの水沢小唄」
 永村 崇
 【併催】シリーズ企画展「新平人脈」
 [期間] 令和6年4月19日(金)~6月16日(日)
 奥州市立 後藤新平記念館

2 後藤伯記念公民館落成式典 正力松太郎祝辞正本 (寄託者:個人匿名)



治定 水澤 後藤 伯 記念 公民 館 落成 式典
 贈呈之辞
 時艱にして我が逝ける大政
 受けたる洪恩に報いんとする赤
 心一片の發露に外ならず 今日
 水澤全町より此の歡會を享く
 るは望外の喜びなり 幸ひに此
 の道場が町民諸子の錬成に竭
 十處ありて 故伯爵の靈を慰め
 得ば余の満足是に過ぐるもの
 な
 一言蕪辭を述べて 贈呈の辞
 と為す
 昭和十六年十一月三日
 讀賣新聞社長
 正力松太郎



3 掛軸 (①収蔵:奥州市 ②寄附者:鈴木広海様 ③寄附者:及川健様)

城外に出て水や雲を眺め散策していると、冬の寒さに耐えてきた一枝(梅)が、雪の中で開花してよい香りを放っている。詩を苦吟する身は瘦せこけ腰は曲がり、日がなぶらぶらと気ままに歩いている。

郭外水雲の一枝雪裡香
 吟身瘦如斜日獨倚祥
 新平

③『郭外水雲を以て一枝雪裡(せつり)に香る
 吟身斜の如く瘦せ日徜徉獨り□ □郊樓樓 膽水』
 (堀籠膽水:藩校「立生館」教授)

物事の道理に達した人は、物事を十分に見抜いているので万物を小さく見る。また、信念を強く持つている人は勇ましく盛んな心を持ち、諸国を遠遊する心を持っている。

達人 大観 萬物を 眇とし
 烈士 壯心 四方を 懐く
 新平

②『達人 大観 萬物を 眇とし、烈士 壯心 四方を 懐く』
 (南宋の詩人・陸游の詩)

①『洗眼人多求聖水 醒心吾獨愛清音』
 (全宋詩・張蘊「重游大滌洞天」より)

人は眼を洗うのに多くの聖水を求める。
 吾は心を醒ますのに清らかなる音色を愛する。

洗眼人多求聖水
 醒心を獨愛清音
 新平